

平成 19 年度宮前区区民会議・明日のコミュニティ部会(第 2 回) 摘録

日 時 平成 19 年 6 月 26 日(火)18 時 05 分～20 時 15 分
場 所 宮前区役所 4 階第 1 会議室
出席者 宇賀神部会長、永野副委員長、鈴木恵子委員、高木委員、三谷委員
関係者 福本委員、渡辺委員
事務局 田辺企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員
佐々木こども総合支援担当参事

1. 開会

事務連絡

- ・会議の公開について
- ・欠席委員について：川島委員、小泉委員、鈴木和子委員、藤沢委員、松井委員、目代委員
- ・特別参加者

福本委員、渡辺委員：部会員ではないが、今回の議事検討の上で町内会の実情とそれを踏まえた意見を伺うために出席をお願いした。

佐々木こども総合支援担当参事：小学校区における「子供安全・安心協議会」の概要説明・報告を行なうために参加。

開会挨拶 宇賀神部会長

- ・こんばんは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は特別参加者として、自治会を代表されているお二方の区民会議委員をお招きして、進めていきたいと思えます。
- ・前回の区民会議において「宮前区のコミュニティは小学校単位から」という方針を発表させていただきました。
- ・現在宮前区内では小学校単位で「こども安全・安心協議会」が立ち上げられ、積極的な活動を展開している地域が出てきています。小学校区でのコミュニティ形成を考える上では、こうした組織との連携や活用が鍵になってくるのではないかと思います。
- ・学校をとりまく環境がどうなっているのか、また自治会が今どういう位置関係をしめているのか、まず知らなければならないと思えます。

2. 議事

(1)小中学校区と町内会・自治会との関係について

事務局による資料 1・2 に基づく説明。資料内容に付加された主な説明内容は以下のとおり。

- ・資料 2 は中学校区、小学校区と避難所エリアを重ねて図面化した地図。部会のテーマを防災に特化する意図はなく、地域構成団体のエリア分けや関係を知る為の参考資料の一つとして提示した。
- ・資料 1 の学校の創立年月日を見ることによって、その地域がいつ頃開発され、コミュニティが形成されてきたのかをある程度伺い知ることができる。
- ・資料 1・2 を見ると、町内会の単位と中学校単位が必ずしも一致していないことがわかる。小学校から中学校への進学も必ずしも 1:1 とはなっていない。
- ・避難所区域と中学校区はおおよそ一致しているが、細かい地域割りが異なる地域もある。

宇賀神部会長 表で見ると、大体 A～D が宮前地区、E 以降が向丘地区である。比較的宮前地区に大型の町内会が多いと聞いている。

渡辺委員 長尾住宅管理組合など表から落ちている町会がいくつかある。指定避難所が高津区になる

地域もあり、いろいろな苦勞があるようだ。向丘中には高津区からの通学者もあり、小学校と中学校でうまくリンクしない地域もある。

永野委員 鷺沼の子ども、東有馬の子どもも有馬中に来ている。

事務局 資料はあくまでも参考資料であり、厳密な正確性は追求せず、大体の資料として見ていただきたい。

永野委員 単純に対応しているところはないということが良くわかった。

三谷委員 学区はまち割り(丁目)をもとに設定されているのではないのか？

事務局 必ずしもイコールにはなっていない。

三谷委員 では、小学校からのアクセス距離で決まっているのでしょうか？

事務局 地形や交通事情なども総合的に考慮されていると思います。

三谷委員 自治会は学区決定に対する影響力・発言力をもっているのか？

福本委員 あまり発言権は無い。PTA など学校関係の組織がきめてきているようだ。自治会はあまり踏み込む余地がない。

宇賀神部会長 学区のエリアは町会に関係なく、決められている。

三谷委員 どちらの学校が近いのか、考えてしまう地域もあります。

事務局 小学校の規模や受け入れ態勢などによっても学区は変わってきます。学区の決定には様々な要素が絡まって複雑になっている。

宇賀神部会長 学区と避難所のエリアは必ずしもイコールでなく、非常に複雑ということがよくわかった。

福本委員 昔は家が建った順に番地がつけられたようで、番地の配置も不規則、複雑である。町名や番地の変更が現在考えられており、説明会なども開催されているようだ。これが実現すれば区割りもきちんとできるのではないか。現在は非常に入り組んでいて、リアス式海岸のようなエリアになっている地域もある。

宇賀神部会長 周辺の区と絡み合う地域もある。これをなんとかしようという非常に難しいだろう。

三谷委員 背景として理解し、無理に整理する必要は無いのではないか。

高木委員 学区に対しては、自治会の単位より PTA 関係の単位の方が強い。2つの避難所や学区に分散されている自治会も多い。小学校区でのコミュニティ形成を目指すなら、自治会よりも学校関係の組織を頼った方がうまくいくのではないか。

福本委員 既存の自治会はどんどん子どもが減る傾向にあり、古い町会など、子どもが非常に少ない地域も多い。例えばうちの町会は子どもが7人くらいしかいない。そこで学区や避難所関係の会議にいても、あまり意見が出せない。学校関係の人が決めた事に協力しているという感じである。役員等何名出してくださいといわれれば出しているが...

やはり学区の会議に対してどのような組織、協力体制をつくるかということが重要ではないか。青少年委員会もあり、どうしても自治会は影が薄くなっている。

宇賀神部会長 やはり学校の会議は、PTA や青少年がメインで活躍をしているというイメージが強い。

渡辺委員 学校関係の会議は確かにそうだが、避難所については、多摩区長尾小など、運営会議に自治会も深く入り込んでいる例もある。

福本委員 地域の防災拠点として私の地元の西野川小学校の場合、役員の3分の2は私もいる野川西、3分の1は野川から出ているが、野川の委員さんには一度もお会いしたことがない方も多い。メンバーの入れ替わりが激しい。

宇賀神部会長 書類がきちんとあり、役員が決まっているだけまだ良いのではないのでしょうか。

福本委員 ただ形だけ、名前だけ連ねているだけではだめである。まだ一度も運営会議をやっていない地域もあり、なんとかしなければならない。

三谷委員 大型コミュニティの位置はこの資料から大体わかる。児童数が多い地域は 30～40 代の若い親世代も多いと推測できる。大型団地などが合わせてプロットできるとよりわかりやすい資料になるのではないか。さらに高齢化などのデータと合わせてみれば地域の発展性もある程度わかりそうだ。例えば、犬蔵では美しの森という 1,000 世帯以上の大規模の住宅開発があり、そこの住民の多くはたまプラーザ駅で乗降し、都内に勤務する。17 小学校区の中でも今後人口が増える所、減る所が見えてくるだろう。

福本委員 うちの団地に少し若い世代の方を入居させて欲しいと役所をお願いに行ったところ、「おたくの団地は年金生活者や病気の方、母子家庭の方などが入る建物だ」と言われた。今後も更に高齢化が進むのは目に見えており、深刻な問題である。実際に低所得者が入っており、若い人が来たねという 60 代だったりする。入ってきた人は面倒をみななければならない。他所の団地から追い出されたような人が来ることも多い。私は慣れているので気にはしていないが、大変である。

三谷委員 子どもの声、赤ちゃんの声が聞こえない地域が増えてきている。

福本委員 子どもの泣き声など滅多に聞こえない。聞こえたと思ったら離婚して戻ってきた方だったりする。ひとり暮らしの高齢者が非常に多い。これはもうどうしようもない。

宇賀神部会長 自治会によって非常にバラつきがある。今度できた犬蔵などは、若い世代がかなり多い。PTA の活動にも格差が出てきてしまう可能性がある。

三谷委員 宮前区内にも過疎化のブロックがあるということ。かたや人口が急増している地域もあり、これは非常に皮肉である。

宇賀神部会長 住んでいる方々にとっては非常に深刻な問題である。

福本委員 うちの団地では災害発生の際は、すぐ避難所に行くのではなく、棟毎に渡してある名簿を元に住民の状態の把握を行ってから、避難所に避難するよう指導を徹底している。私は避難所運営に関わるのですぐ避難所に行かなければならず、私がいなくてもできるよう、普段から口うるさく言っている。他地域から見たら、住民が大勢いるから何でもないように見えるかもしれないが、高齢化が進む団地では非常に深刻な問題だ。

鈴木委員 福本委員のようにしっかりとした町内会長がいる地域ばかりだったら良いが、いない地域も多い。誰がどのようにサポートしていくのか。普段の生活も厳しい状況がある中で、団地の中にサポートセンターのようなものを設置しなければなかなかできない。コミュニティの形成云々以前に、放っておけない問題が発生している。

福本委員 民生委員は情報を持っていても、守秘義務などがあり、ある意味では非常に気の毒な立場とも言える。私は民生委員とは別に自治会として調査、情報の収集を続けてきた。ある程度強引に進めなければなかなかまとまらない実情もある。私の団地では自治会の役員はずっと変っておらず継続性があり、うまくやってきている。私も 12 年関わってきている。

三谷委員 同じ様な町会はあるのでしょうか？

福本委員 うちのようなやり方は特別のようです。ワンマン体制ともいえると思いますが...

三谷委員 高齢者の割合など住民の構成などの意味ではどうでしょうか。

鈴木委員・渡辺委員 長尾、有馬など、建設から 30 年以上経っている公営の団地はほぼ同様です。高齢化が顕著です。

福本委員 常時情報を把握し、非常体制をつくっていかないと、いざという時やっていけない。

鈴木委員 団地内であれば、情報収集はやりやすい部分もあるが、周辺から協力をもらうには、やはり他人様になってしまいやりにくい部分がある。

福本委員 いくら勉強や活動をしていても問題が無くなることはない。少しずつでも進めていくしかない。

鈴木委員 やればやるほど、新たなことが見えてくる。

福本委員 学校関係の会議には月 1 回出席しているが、畑が違うかなと感じている部分がある。

鈴木委員 福本委員の西野川団地のように子供がおらず、PTAに関わっている人がほとんどいない自治会も青少年指導員は選出しなくてはいけないが、ほとんど学校と関係がなくなってしまう自治会も出てきている。

宇賀神部会長 一律なやり方ではなかなか難しいということでしょうか。

事務局 今回のデータに自治会の加盟率や、地域の構成などのデータも入れ込もうという試みがあったが、非常に手間がかかる作業であり、把握が難しい実情があった。

福本委員 今回 NHK の「ご近所の底力」という番組の取材を受けたが、役所の把握しているひとり暮らし高齢者の人数と、うちの自治会が調査で把握した人数に 40 人以上の開きがあった。

三谷委員 入居してからの環境の変化や、不正な書類の提出などもあり、本当に実情を掴むのは役所では大変だ。私は「個人より、自治会全体を大事にする」といえるが、役所は決して個人を切り捨てたり、軽んじるようなことは言えない。真実の統計というのは役所では取れないだろう。

宇賀神委員 自治会格差など非常に複雑な社会に今なっている。

高木委員 今回の資料を見ると、小学校の児童総数に対し、中学校の児童総数の割合が低い。ある程度裕福であり、住居が宮前区内にありながら、区外の私立中学校に通う児童も多いのではないかと。

渡辺委員 小学校は 6 学年、中学校は 3 学年であり単純に比較はできない。

事務局 市立の中学校に入れるのは約 2 割と聞いたことがあります。

三谷委員 宮前区は川崎都民で学歴が高い親が多く、私立志向が高いとも聞いた。住民意識も高い。

鈴木委員 民度が高いと言われる。

高木委員 小学校区を対象とするのはいいのではないかと。

三谷委員 昔は小学校から中学校はつながっていて、先輩後輩や同級生のつながりがあった。バカ野郎と言い合える関係があったが、これも希薄になってきている。

(2)子ども安全・安心協議会について

宇賀神部会長 宮前区では小学校区単位で、いろいろな団体が入って子どもの安全・安心に対して活動していく子ども安全・安心協議会」が立ち上げられ、動きだしている。

こども総合支援担当佐々木参事から「子ども安全・安心協議会」の概要について、資料 3 に基づいて説明があった。資料に付加された主な内容は以下のとおり。

- ・ 宇賀神部会長は犬蔵小の子ども安全・安心協議会の代表でもいらっしゃり、活動いただいている。
- ・ 地域によってはまだ 1 回しか開催していないところもあり、地域差がある。
- ・ 60 代の高齢者が活躍しているところは全体が活発に動いている傾向があるようだ。
- ・ 設置の背景としては、多摩区で発生した殺人事件があり、登下校時に学校と PTA だけでは子どもは守れないという認識、要望が広まったことがあった。

- ・ 区単位での子ども安全安心まちづくり協議会は宮前区独自の取組である。
- ・ 地域との結びつきが強い小学校区で活動しなければ、空洞化するだろうということで、当初から検討を進めてきた。
- ・ 向丘、平、稗原で先行、全小学校区で平成 18 年度中に協議会を立ち上げた。(例外：野川地区は地域教育会議で合同)
- ・ わんわんパトロールなどの実践団体にも協議会の委員になっていただくと共に、小学校区ごとに連絡役である代表をおいた。区単位の取組だが、高津区からの通学関係者にはオブザーバーという形でご参加いただいている。

【各小学校区の活動状況】

野川小・西野川小・南野川小：83 運動を提起して進めているが、ボランティアがなかなか集まっていない現状があり、もう少し身近な方法を模索している。

宮崎小：PTA と地域教育会議との連携がもともと強く、既存の活動があるほか、地域全体が人通りが多く、既存の活動の継続、強化を進めていく方針である。

鷺沼小：宮崎小よりさらに地域の人通りが多く、防犯よりは交通安全がテーマとなっている。危険箇所の把握や商店街の活用が議論になっている。

有馬小・西有馬小：区内でパトロールが定期的にされている 6 校のうちの 2 校。地域のいろいろなメンバーが関わっている。ボランティアも募り、両小学校と有馬中で一体の動きがある。

富士見台小：全市で 4 校のみの集団登校実施校の一つ。年長の子どもが班長を務め、10 人前後の組で登校する精密なシステムがある。現行のシステムを大事にしながら、拡充を検討中

宮前平小：校外委員が中心。地域の動きはそれほどない。交通安全に比重。少しずつあせらずに進めていく考え。

宮崎台小：パトロールがある。拡充の打合せを何回か開催した。

向丘小：毎日パトロールをしている。老人クラブが担い手の中心となっているのが特徴で自治会も全面協力。老人クラブ 53 人、自治会 73 人が交代で雨の日も休まずに登下校両方の見守りをしている。毎日の交流で子ども達とも親しくなり、学校の朝礼に担い手達が招かれて御礼をされた。良い意味での交流が進んでいる先進地域。

平小：けやき平のグリーンハイツ自治会が中心となって始めてパトロール活動を始めた。最初は 55 名前後の方が交代でほぼ毎日見守りをしていたが、徐々に周辺地域にも広がってきている。保護者との交流や集団下校などの新たな試みもある。

白幡台小：パトロール実施校の一つ。校外委員が中心。今後地域の協力を得ていきたい意向がある。

菅生小：検討中。防災と合わせて取組をしたい意向がある。

稗原小：稗原会という組織を中心に地域の協力を得ながら定期的なパトロールを実施。

犬蔵小：地域との協力関係はあるが、パトロール実施は現在検討中

土橋小：現在準備会を改めて立上げ準備中。学校の方で腕章等のグッズなどをつくりわんわんパトロールの方などに配布するなどの試みがじわじわ広がってきている。最近この腕章等が地域で目立つ様になってきたという声も聞かれる。パトロールの実施という面だけでなく、こうした地道な試みを評価していく必要もあると思われる。

【総括】

- ・ 町内会、自治会、老人会と、学校や P T A が協力した地域の取組として、パトロールや見守りの実施の他、腕章の配布、子ども 110 番の拡充などできるところから、徐々に地域に浸透してきて

いる。

- ・ 大きく以下の3つの子ども安全・安心の活動がある。
 - パトロール・見守り
 - 登下校時の見守り、あいさつ運動、不審者情報の発信と対応など
 - 環境の改善
 - こども110番の拡充、通学路の危険箇所の点検・確認、公園の植木剪定、街路灯の設置など
 - 子どもの危険予知能力を高める動き
 - 地域安全マップの活動(地域教育会議)、標語(例：いかのおすし)、県のくらし安全指導員の活動など、
- ・ パトロール・見守りはかなり労力が必要な活動であり、行政からのお願いでなく、地域が、独自に自分達で考えてやっていく必要がある。
- ・ 最も重要なのは、それぞれの地域に合った形で取組み、じわじわと拡大していくこと、そして活動が持続していくこと。
- ・ 安全・安心の活動は有効なんだということをもっと宣伝していかなければならない。パトロール実施地域では犯罪が3分の1、4分の1になってきている。
- ・ 平成14年に県で刑法犯が14万件発生、検挙率も19.4%と最低を記録した。子どもの犯罪も増え、体感治安の悪化、不安の増加があった。
- ・ 翌年の平成15年から、副知事に警察関係者を起用するなど県が全面的に地域防犯に力を入れ始め、以降5年間ぐっと数字も良くなってきている。安全安心は経済情勢にも左右されるが、コミュニティのつながりに大きく関係があり、地域の連帯感や規範意識が希薄化すると犯罪が増える。コミュニティづくりが非常に重要だと感じている。
- ・ 防災は各家庭での意識や備えが第一であり、防犯とは少し性格が異なる部分がある。しかし災害弱者支援などは普段からの関係づくりが重要であり、関連も深い。防災と防犯をうまくつなげていくことが必要であり、様々な検討が必要だと思う。

意見交換

宇賀神部会長 私の関わる犬蔵小では、先日「何もしないで1周年経ってしまいましたね」と校長と話していたが、他の地区では素晴らしい取組が進んでいるようだ。

永野委員 本当の意味で地域が参加し、一体となって動いているのは向丘小と平小の2校だ。地域から50~60人が協力し、ほぼ毎日下校時の見守りをしている。

代表委員の一覧をみるとPTA会長がなっている地域が多いが、こうした地域はどうしても学校中心に進めることになり、校外委員が中心となり、地域の人が入りにくくなってしまふことがある。校外委員はこれまで校門の開閉や警報装置の設置などに取組んできたが、一生懸命やっていると、学校関係者以外を拒否する傾向がある。地域は校長に直談判しないとなかなか関われなかったり、若い母親が地域との絡みに積極的でなかったり、嫌がることもある。地域と一緒に見守る意識が薄く、コミュニティの面からいくとまだまだ課題が多い。

宇賀神部会長 やはり地域は学校に入りにくい印象があるのでしょうか？

渡辺委員 正直に言うと確かにあります。お声がかかれば行きますが。

福本委員 会議などに参加しても、雰囲気の違いを感じることもある。わからない話、知らない話も結構出てくる。直接的な学校関係者以外はやはり足が遠のいてしまいがちだ。

宇賀神部会長 年齢的なものもある。自治会関係者と学校関係者では、年代も違う。

福本委員 世代の差もあります。物の考え方が違う。青少年指導員などはかなり一生懸命学校の活動にも参加しているが、町内会の方が学校に積極的に関わっているのはあまり見たことがない。

永野委員 地域の側から学校に呼びかけるという意図があった。学校が中心で立ち上がると地域の人には遠慮してしまう。

鈴木委員 確かに地域は学校に遠慮している面があります。私は PTA も自治会も関わっていますが、どちらもそれぞれの問題に特化しないでほしいと思っている。子どもも年寄りも両方気になるし、同時に考えたい。「地域」という枠で考えて、あまりしぼりを持たない。

地域への呼びかけがうまくいかないという話があるが、どのような声のかけかたをしたのか聞きたい。見守りの腕章やカードを配って散歩の時だけでもぶらさげてもらうなど、参加しやすい、気楽なくみや声かけをすることが重要だ。

高木委員 テーマはやはりある程度限定しないと、目標が見えにくく、難しい部分もあると思う。

鈴木委員 もちろんカードを配布する時にはきちんと登録や選択はする。それがあれば、いつでも自由に見守りに参加できるようにする。コミュニティはそれほど単位ごとに動くものではない。

高木委員 地域でパトロールをしている地域では、参加している組織間でのコミュニティの形成が進んでいる。犯罪がどのくらい減っているかなどデータ化し数値などで示せれば、良い。単に「良いよ」「やろうよ」と言っても、成果が見えないと取組みにくい地域もあると思う。

宇賀神委員 いきなり「毎日やっている地域もあります」と言われるとやはり身構えてしまう。

高木委員 活動のとっかかり、第一歩がなかなか踏み込めない。あまり真剣に考えてしまうとさらに動きにくくなってしまう。成功例というのは非常に大切な情報だ。向丘小の事例などは本当にすごいと思う。

永野委員 平小では、リーダーに学校でも町会でもない、地域に認められている人がなったのがよかったのではないかな。

福本委員 老人会の方々は「こだわり」というか、何か一つのことを始めるとしっかりやる特質を持っている。老人特有の良い面であり、悪い面でもあるが、自然体で継続できる。これをうまく利用して活躍してもらおう。

宇賀神部会長 あの世代の方々が一度やろうと思うと非常にしっかりやっていただける。そこまですまくもっていくための頼み方も重要だ。ただお願いしますではなく、お互いに協力しましょうという雰囲気づくりが大切だ。

高木委員 もっていき方は本当に重要。良い仲介役がいると良い。

三谷委員 今回の報告を聞いて、私は非常に感動した。新しいコミュニティの可能性をすごく感じました。先進地域以外も今を良い機会、チャンスと捉え、課題の整理を進めたい。17の小学校区が均一である必要はなく、それぞれの進め方で良い。共通のマインドがあれば良い。成功例からうまくマニュアルのようなものできないかな。

PTA や校長は何年かおきに人が変わる組織なので、あまり学校側に依存するようではまずいと思う。地域で協力する風土をつくりたい。

富士見台小学校は向学心の高い学校で、帰国子女も多いと聞いた。

団塊の世代もうまく取り込みながらできないか。地域になかなか溶け込めない団塊世代に対して募集をかけ、地域参加への糸口にもしたい。

宇賀神部会長 学校の役割も大切。避難所運営会議も事務局が必要であり、学校や学校の先生が簡単

な事務局や窓口となってくれれば実務上一番良いと思うのだが、なかなかやっていただけない実情がある。

福本委員 施設管理者としてやはり学校関係者が一番力、発言権を持っている。

宇賀神部会長 私の地域の学校は、運営会議には参加するが、その他は学校がやる仕事ではないという認識があるようだ。

渡辺委員 校長の考え方にかなり左右される。校長が変わるとがらっと対応が変わることもある。

高木委員 避難所運営は災害発生後の時間経過によってかなり変わってくる。3日目以降は働きにいけない人は家を直しにいたり、働きに出たりといった活動が始まり、日中避難所に残るのは高齢者が多くなる。

福本委員 今の会長が辞めたらどうなってしまうか不安な組織や会議が行なわれていない組織も多い。

高木委員 やはりトップは長く関われる地域の人でないとなかなか務まらないのではないか。パトロールなどもそういうところから始めると広がりを持っていくのではないか。

福本委員 地域の老人会や婦人会を巻き込んだ活動の方が長持ちする。老人会のメンバーは任期や引退も無く、動けなくなるまで変わらない。強力な組織だ。

渡辺委員 私はこの4月から老人会のメンバーとなったが、東高根森林公園の花壇作りに皆さんすごいパワーを注いでいる。鍬などでの土おこしから元気にやる。目標がしっかりしていると、老人会はずい集中力、パワーを発揮する。

一方「老人会」というと印象もあまり良くなく、メンバーの増加も課題となっている。「まだ老人じゃない」と抵抗感を示す人も多い。

高木委員 私の地元では老人会予備軍みたいな組織がかなり活発に動いている。

永野委員 町会関係だけになるとそれも良くない面がある。子ども安全・安心協議会のように様々な組織が関わり合いながら、新たな別団体を形成し、こういう団体がコアになって小学校区単位で地域の課題に取り組んでいけると良いと思う。PTA 中心でも町会中心でもなく、うまく重なり合うしくみが必要だ。

宇賀神部会長 町会の組織は結構ガチガチに固定化されていて、青少年指導員より上とか、変な特権意識を持っている方もいる。

福本委員 自治会にとっては仕事が増えて重荷になるようなことにはあまり触らないでおこうという本音もある。

宇賀神部会長 自治会やPTAの組織だけに頼らずに子どもの安全や安心をテーマに、団塊や老人のパワーもうまく引き出していけると良い。

福本委員 会議に老人会のトップを呼ぶなどしてうまくいく例もある。

三谷委員 組織がうまく動かないのを学校や校長のせいだけにしてはいけない。むしろ地域ができていないから、学校に入っていけないのである。地域がしっかりしていれば、学校との話も身構えずにできるはずだ。地域の方から働きかけていくことが必要であり、それができれば学校も助かるのではないかと。そうではないと先に進まない。

宇賀神部会長 とっかかりのテーマとして「子ども」は入りやすい。コミュニティの形成を小学校区単位で目指すなら、適切でもあるだろう。子どもは地域の宝ということでは共通認識も得やすいだろう。

永野委員 防災も小学校区かもしくはそれより小さい単位で取り組んでいくのが理想だろうと感じ

ている。子どもも高齢者も防災弱者として、真剣に考えるようになる。

鈴木委員 本当にネットワークが必要。ネットワーク組織がうまくいっている地域、いっていない地域の温度差が非常に激しい。フィールドは同じですから、うまくドッキングさせていければ良い。

単体の組織に頼るのではなく、ネットワークをつくっていくことが地域をうまくいかせる秘訣だ。

宇賀神部会長 これまでの自主防災組織は自分たちの活動だけで満足してしまい、地域の他の事には目を向けてこなかった傾向があった。今、慌てて避難所運営会議などを通じて連携を進めている。

三谷委員 防災は性急性もあるテーマである。生きた防災計画、対策が重要だ。

宇賀神委員 自治会に新たな人材が欲しいという悩みもある。魅力が無いのでしょうか。

福本委員 とにかく自然体で参加すること、参加できることが大切。あなたは何かとか、あなたは駄目というようなことがあってはならない。

3. その他

自治会加入勧誘パンフレットの紹介...別紙参照、転入者に対して配布している物

次回の日程と進め方

成功事例の掘り下げなどから、検討を進める。

今回紹介された平小、向丘小の関係者から話を聞く事も検討する。

日程候補は7月18日(水)または19日(木)

閉会挨拶(田辺企画調整担当主幹)

- ・ 活発なご議論をありがとうございます。
- ・ 平小の子ども安全・安心協議会は噂を聞いて、一度会合に出席させていただいたことがあります。成功事例をモデルとして、良いコミュニティがじわじわと広がってゆけば良いかなと思います。